

2019年度 教職課程活動報告

大西 勝也

教職課程

本学教職課程の活動は多岐にわたりますが、ここでは次の活動について報告させていただきます。

段階的な履修条件を設定した教育課程の編成

課程運営において、学年制のような履修条件を設定した教育課程を編成し、学年の継時性を踏まえた計画的履修を促すというのが教職課程の方針です。今年度もこの方針に従って、教職課程履修の学生が段階的に教員に必要とされる知識・技能を高め、学校現場での実践力を身に付けるように課程運営を行いました。

主体的・対話的で深い学びを指導する力を育成する少人数クラスの授業運営

教職課程では、多くの授業において少人数クラスを実現し、学生一人一人のアクティブ・ラーニング（討論・模擬授業・プレゼンテーション等）の機会を作り、学生が自ら主体的・対話的で深い学びを経験しつつ、学校現場でそれらを活かして生徒に指導できるように授業運営しています。今年度も同様の授業運営が行われました。そして、年度末に、教職課程の授業を担当する専任・非常勤の教員がより良い授業実践に向けて意見や情報交換をする懇談会が開催されました。

学校等での現場体験の提供

学校等での現場体験には、近隣の学校でAT（アシスタント・ティーチャー）等を行う学校ボランティアと、近隣の中学生を対象とした個別学習支援としてJ I N-K A N A学習塾があります。運営を担う専任教員や学習アドバイザーによる近隣の学校との信頼関係

の構築や、体験する学生へのカンファレンスのきめ細やかな実施により、現場体験をする学生の自主性・積極性がこれまで以上に高まっています。

卒業生教員とのつながり

2014年に神大の卒業生教員同士の交流と、教職課程の連携によるよりよい教員養成に向けて、「神大教員ネットワーク」が設立されました。その活動の一環として、毎年8月に「若手教員の集い」が開催されます。今年度は、Ⅰ部「意見交換会」及びⅡ部「ベテラン教員を交えた協議会」(テーマは「特別な支援を必要とする子どもへのかかわり方」,「職場の人間関係と今どきの子ども」,「小学校での児童への支援の在り方と総合的学習の時間の取り組み」),そして、Ⅲ部「情報交換会・世代間交流」が実施されました。若手教員から率直な意見が出され、活発で有意義な交流のひとつとなりました。

教員採用試験対策

今年度の教員採用試験対策講座は、4月～8月に4年次生を対象に、自治体別模擬試験、論作文対策講座、面接個別指導、「教職教養」直前講座、二次試験対策講座等のプログラムが、また、7月以降に3年次生を対象に、スタートガイダンス、専門教養対策講座、全国公開模擬試験、論作文基礎講座、「教職教養」対策講座、全国公開模擬試験、特別対策講座(面接、場面指導、模擬授業等)等のプログラムがそれぞれ実施され、教員志望の学生が多く参加しました。

F D活動—教育研究交流会

教職課程では、毎年、神大の卒業生教員及び在学生を主な対象としつつ、近隣学校等の教育関係者や学校教員経験者の非常勤講師を含めた本学教員とが、それぞれの立場から学校教育や教員養成等について考え学び意見交換を行う「教育研究交流会」を開催しています。第Ⅰ部では、「囚われのいじめ問題—事件報道・当事者・教育実践—」と題して、教育社会学者の北澤毅先生(立教大学名誉教授)が基調講演を行いました。次に近藤昭一先生(本学特任教授)・小林力先生(本学特任教授)が指定討論を行い、フロア全体での熱いディスカッションへと発展しました。第Ⅱ部では、「神大・ユースサポート・プロジェクト(JYSP)の展開—学校ボランティア・JIN-KANA学習塾活動報告—」ということで、学校ボランティアとJIN-KANA学習塾に参加している学生諸氏からの活

動報告が行われました。第Ⅲ部では、「教育」に関わる卒業生・学生・近隣学校・本学教員等が広く交流を図る懇親会が行われました。

教員免許状更新講習（必修・選択必修領域）

今年度は8月に開催され（受講者：81名）、必修領域、選択必修領域と2日間に渡って行われました。グループに分かれ、各教員から普段の教育活動のふり返りが発表され、そこから提起された教育上の課題等について活発に議論されました。年代や校種の異なる受講者が学び合い、刺激し合う様々がうかがえました。